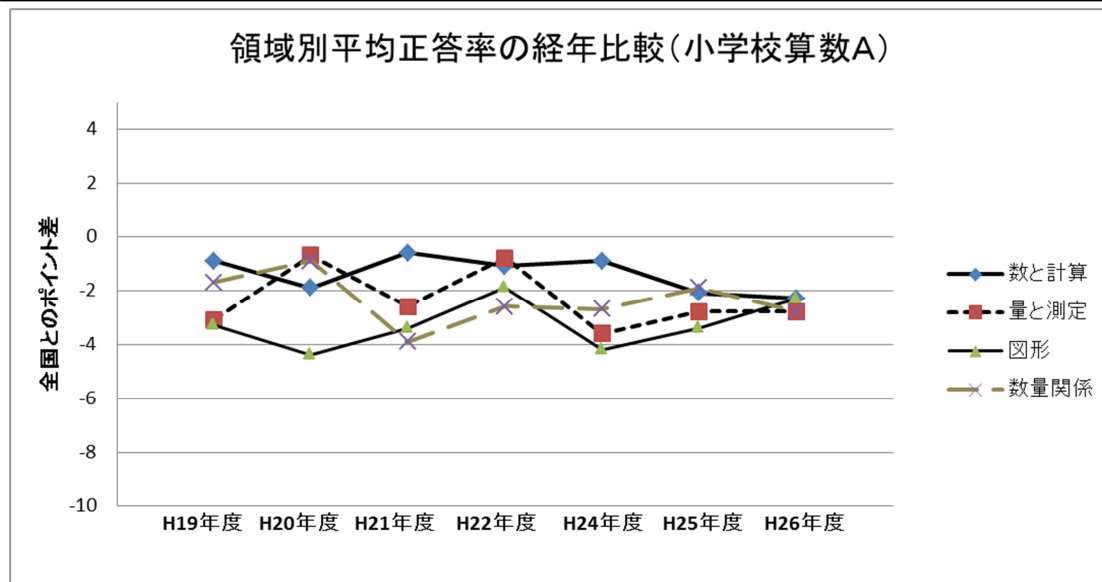


## 小学校算数における分析

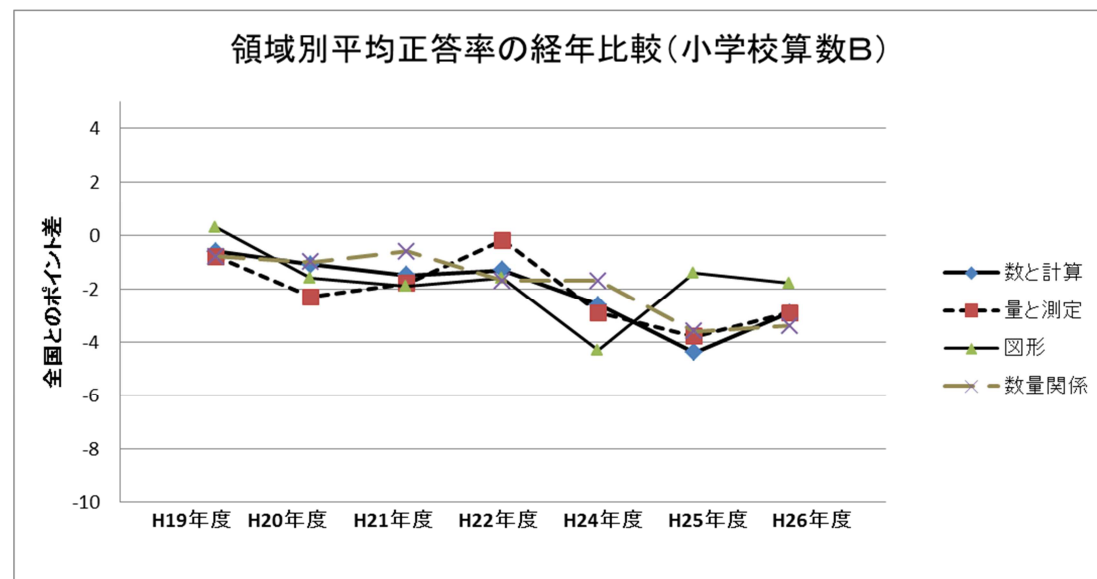
### 領域別平均正答率の全国との比較【小学校】〔算数〕

算数Bでは、全体的に昨年度よりも全国との差が少し縮まっている。しかしながら、「数量関係」の領域では3ポイント以上下回っている。目的に応じて表やグラフを選択し、活用する活動などを充実することが大切である。



領域別平均正答率の経年変化(算数A)

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H24年度	H25年度	H26年度
数と計算	-0.9	-1.9	-0.6	-1.1	-0.9	-2.1	-2.3
量と測定	-3.1	-0.7	-2.6	-0.8	-3.6	-2.8	-2.8
図形	-3.3	-4.4	-3.4	-1.9	-4.2	-3.4	-2.3
数量関係	-1.7	-0.9	-3.9	-2.6	-2.7	-1.9	-2.8



領域別平均正答率の経年変化(算数B)

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H24年度	H25年度	H26年度
数と計算	-0.6	-1.1	-1.5	-1.3	-2.6	-4.4	-2.9
量と測定	-0.8	-2.3	-1.8	-0.2	-2.9	-3.8	-2.9
図形	0.3	-1.6	-1.9	-1.6	-4.3	-1.4	-1.8
数量関係	-0.8	-1	-0.6	-1.7	-1.7	-3.6	-3.4

## 小学校算数における改善の視点

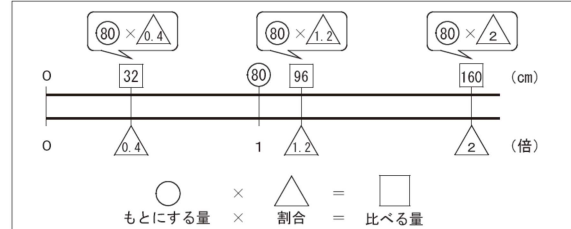
### 数と計算の力を伸ばすポイント

#### ○ 数の相対的な大きさについて考えたり表現したりしましょう

- 数の相対的な大きさとは、数の大きさを、十、百、千などを単位として、そのいくつかで捉えた数の大きさのことです。このような数の相対的な大きさについての理解は、計算の仕方を見つけたり、計算の結果を見積もったりするときに有効に働きます。

#### ○ 小数倍の意味を図と関連付けて理解しましょう

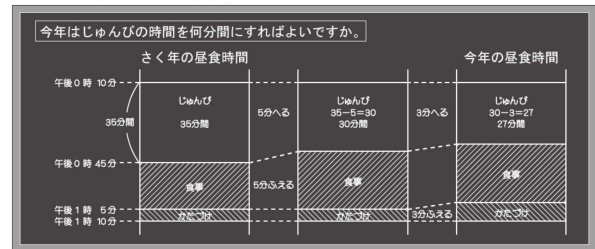
- 整数のかけ算の学習を思い出し、右の図のように、数量の関係を表している文脈が同じ時は、整数の場合で成り立つ式の形は小数の場合もそのまま活用できることを理解しましょう。



### 量と測定の力を伸ばすポイント

#### ○ 条件に合う時間や時刻を筋道立てて考えましょう

- 日常生活において、複数の条件に合わせて行動の計画を立てることはよく行われます。その際、算数で学習した時刻や時間の読み方及び求め方とともに、筋道立てて考えることが大切です。例えば、右の図のように、情報を図の中に整理して表し、解決の筋道を立てることが大切です。



#### ○ 問題の解決に必要な情報を選択し、根拠となる事実を関連付けることで、解決の方法や判断の理由を説明しましょう

- 問題を解決した過程を他者に説明する際には、問題（文章や図、表、グラフ等）から必要になる情報を選択するとともに、情報を関連付けて、根拠となる事実や判断の理由を的確に表現することが大切です。その際、表現したことを振り返り、比較する対象が明確になっているか、説明の根拠となる情報が示されているか等を確認することも大切です。

### 図形の力を伸ばすポイント

#### ○ 問題を解決した結果が正しいことを、条件を基に振り返って考えましょう

- 解決した結果を振り返ることは、誤りに気付くことができるよさがあります。また、問題を解決する際に立てた見通しに基づいて振り返ることで、見通しを立てたことのよさを実感することもできます。

#### ○ 図形の約束や性質と、操作とを関連付けて理解しましょう

- 用いる道具の操作と、その意味とを関連付けて理解することが、図形の約束や性質についての理解を深めることにつながります。

### 数量関係の力を伸ばすポイント

#### ○ 目的に応じて表やグラフを選択し、活用しましょう

- 絵グラフ・棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ、それぞれがもつ特徴を理解して、目的に応じたグラフを選択し、他教科等の学習や生活に活用することが大切です。

#### ○ 数量の変化や対応の様子を捉え、そこから規則性を見いだしましょう

- 事象から規則性を見いだすことは、変化や対応の関係を基に処理することができるので、合理的、能率的に問題を解決していく上で大切です。その際、日常の事象を算数の内容と関連付け、学習した用語を用いて的確に表現することも大切です。